

技術情報

J A全農やまぐち

TAC 営農推進課

(083-988-0681)

平成 25 年 9 月 3 日 発行

第 181 号

トビイロウンカに注意報（第 2 報）が発令

～ 9 月中旬以降収穫のほ場は確認と防除が必要～

トビイロウンカについてはすでに注意報が発令され防除の徹底をお願いしているところですが、その後も発生が増加していることから、9月中旬以降に収穫するほ場を対象に、9月3日付で山口県から注意報第3号が発令されました。

つきましては、防除に万全が期されますよう、下記及び「発生予察注意報第3号(写)」を参考に、ご指導をお願いします。

記

1 注意報の予報内容

- (1) **発生地域** 県内全域（9月中旬以降に収穫するほ場）
- (2) **発生時期** 9月上旬～下旬（幼虫最盛期（第三世代））
- (3) **発生程度** やや多

2 防除対策

- (1) **防除時期** 多発生を確認したら直ちに防除する
- (2) **防除薬剤** 基幹防除剤及び専用剤（専用剤は表のとおり）

3 防除上の留意事項

- (1) 全農の調査では、9月中旬以降に収穫すると考えられるほ場において、出穂期前後の防除が実施されていないほ場を中心に発生が多く、防除の目安（8月下旬に株当たり5頭以上）を超えるほ場率は32.8%と非常に高くなっています。
- (2) 9月5日以降急激に幼虫が増加するので、9月中旬以降に収穫するほ場は直ちに発生状況を確認し、必要に応じ防除してください。一方、すでに防除した圃場についてもその後の発生状況を確認してください。発生が多いほ場は株元にすすが発生していることが多い。
- (3) 防除薬剤は効果の高い剤を使用してください。また、トビイロウンカは株元に寄生しているので、薬剤は株元に十分届くよう丁寧に散布してください。なお、薬剤散布後には必ず防除効果を確認してください。
- (4) 収穫期が迫り薬剤散布ができないほ場は、収穫適期の範囲内で早めに収穫してください。
- (5) 坪枯れはトビイロウンカの吸汁による茎の脱水症状によって発生します。高温乾燥に加え収穫前の早期落水は坪枯れの発生を助長するので、適期の落水に努めてください。

粉剤

商品名	希釈倍数・使用量 散布液量	使用時期 (収穫前日数)	使用回数	使用方法	成分含む 使用回数	備考
アブロードバッサ粉剤DL (普)(B,Bs)	3~4kg/10a	収穫7日前まで	4回以内	散布	プロフェジン4回以内(但し、小包装投入は1回以内),BPMC5回以内	—
スタークル粉剤DL アルバリン粉剤DL(普)(A)	3kg/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	ジノテフラン4回以内(育苗箱への処理及び側条施用は合計1回以内、本田での散布、空中散布、無人ヘリ散布は合計3回以内)	—
ダントツH粉剤DL(普)(A)	3~4kg/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	クロチアニジン4回以内(但し、移植時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人ヘリ散布は合計3回以内)	—
MR. ジョーカー粉剤DL (普)(A)	3~4kg/10a	収穫7日前まで	2回以内	散布	シラフルオフェン2回以内	—
トレボン粉剤DL(普)(B)	3~4kg/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	エトフェンプロックス3回以内	—
トレボンスター粉剤DL (普)(B,A)	3~4kg/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	エトフェンプロックス3回以内,ジノテフラン4回以内(但し、育苗箱への処理及び側条施用は合計1回以内、本田での散布、空中散布、無人ヘリ散布は合計3回以内)	—
パダントレボン粉剤DL (普)(B,Bs)	3~4kg/10a	収穫21日前まで	3回以内	散布	エトフェンプロックス3回以内,カルタップ6回以内(但し、種もみ浸漬は1回以内、床土への混和及び育苗箱への処理及び側条施用は合計1回以内)	—
クラブ粉剤DL(普)(A)	3~4kg/10a	収穫14日前まで	2回以内	散布	エチプロール2回以内(但し、移植時までの処理は1回以内)	—
クラブジョーカー粉剤DL (普)(A,A)	3~4kg/10a	収穫14日前まで	2回以内	散布	エチプロール2回以内(但し、移植時までの処理は1回以内),シラフルオフェン2回以内	—

粒剤

商品名	希釈倍数・使用量 散布液量	使用時期 (収穫前日数)	使用回数	使用方法	成分含む 使用回数	備考
アブロード粒剤(普)(B)	3~4kg/10a	収穫7日前まで	4回以内	湛水散布	プロフェジン4回以内(但し、小包装投入は1回以内)	ウンカ類はウンカ類幼虫で適用。遅効的だが、残効性に優れる(約30日)。成虫に直接効果は無いが、卵をふ化させない作用がある。
アブロードパダン粒剤 (劇)(Bs,B)	3~4kg/10a	収穫30日前まで	4回以内	湛水散布	カルタップ6回以内(但し、種もみ浸漬は1回以内、床土への混和及び育苗箱への処理及び側条施用は合計1回以内),プロフェジン4回以内(但し、小包装投入は1回以内)	ウンカ類はウンカ類幼虫で適用
スタークル粒剤 アルバリン粒剤(普)(A)	3kg/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	ジノテフラン4回以内(育苗箱への処理及び側条施用は合計1回以内、本田での散布、空中散布、無人ヘリ散布は合計3回以内)	—
スタークル豆つぶ(普)(A)	250~500g/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	ジノテフラン4回以内(育苗箱への処理及び側条施用は合計1回以内、本田での散布、空中散布、無人ヘリ散布は合計3回以内)	—
ダントツ粒剤(普)(A)	3kg/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	—	—
ベストガード粒剤(普)(A)	3~4kg/10a	収穫14日前まで	4回以内	散布	ニテンピラム4回以内	—
クラブ粒剤(普)(A)	3kg/10a	収穫14日前まで	2回以内	湛水散布	エチプロール2回以内(但し、移植時までの処理は1回以内)	—
トレボン粒剤(普)(B)	2~3kg/10a	収穫21日前まで	3回以内	散布	エトフェンプロックス3回以内	ニカメイチュウはニカメイチュウ第1世代で適用

液剤

商品名	希釈倍数・使用量 散布液量	使用時期 (収穫前日数)	使用回数	使用方法	成分含む 使用回数	備考
アブロードフロアブル (普)(B)	1000倍,60~150 リットル/10a	収穫7日前まで	4回以内	散布	プロフェジン4回以内(但し、小包装投入は1回以内)	ウンカ類はウンカ類幼虫で、ツマグロヨコバイはツマグロヨコバイ幼虫で適用。遅効的だが、残効性に優れる。成虫に直接効果は無いが、卵をふ化させない作用がある。
アブロード水和剤(普)(B)	1000~2000倍	—	—	—	—	—
MR. ジョーカーEW (普)(A)	2000倍,60~150 リットル/10a	収穫14日前まで	2回以内	散布	シラフルオフェン2回以内	—
アブロードスタークルゾル (普)(A,B)	1000倍,60~150 リットル/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	ジノテフラン4回以内(但し、育苗箱への処理及び側条施用は合計1回以内、本田での散布、空中散布、無人ヘリ散布は合計3回以内),プロフェジン4回以内(但し、小包装投入は1回以内)	—
スタークル顆粒水溶剤 アルバリン顆粒水溶剤 (普)(A)	3000倍,60~150 リットル/10a	収穫7日前まで	収穫7日前まで	収穫7日前まで	収穫7日前まで	収穫7日前まで
スタークル液剤10 スタークルメイト液剤10 (普)(A)	1000倍,60~150 リットル/10a	—	—	—	—	—
ダントツフロアブル(普)(A)	5000倍,60~150 リットル/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	クロチアニジン4回以内(但し、移植時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人ヘリ散布は合計3回以内)	—
ダントツ水溶剤(普)(A)	4000倍,60~150 リットル/10a	—	—	—	—	—
クラブフロアブル (普)(A)	2000倍,60~200 リットル/10a	収穫14日前まで	2回以内	散布	エチプロール2回以内(但し、移植時までの処理は1回以内)	—
トレボン乳剤(普)(B)	1000~2000倍,60 ~150リットル/10a	収穫21日前まで	3回以内	散布	エトフェンプロックス3回以内	—
トレボンスターフロアブル (普)(B,A)	1000倍,60~150 リットル/10a	収穫21日前まで	3回以内	散布	エトフェンプロックス3回以内,ジノテフラン4回以内(但し、育苗箱への処理及び側条施用は合計1回以内、本田での散布、空中散布、無人ヘリ散布は合計3回以内)	—
クラブジョーカーフロア ブル(普)(A,A)	1000倍,60~200 リットル/10a	収穫14日前まで	2回以内	散布	エチプロール2回以内(但し、移植時までの処理は1回以内),シラフルオフェン2回以内	—

平成25年9月3日

山口県

病虫害名 水稻のトビイロウンカ

1 発生地域 県内全域（9月中旬以降に収穫するほ場）

2 発生時期 9月上旬～下旬（幼虫最盛期（第三世代））

3 発生程度 やや多

4 注意報発令の根拠

- (1) トビイロウンカについては、8月12日付け注意報第2号により防除の徹底を呼びかけてきたところである。その後、8月26日～28日の巡回調査では、発生ほ場率79.8%（平年27.7%）、10株当たり虫数21.6頭（平年7.5頭）で平年に比べやや多く、8月6日～8日の巡回調査（発生ほ場率58.1%、10株当たり虫数1.7頭）と比べて急激に増加した（図1、図2、図3）。
- (2) (1)の調査では、特に9月中旬以降に収穫するほ場（ヒノヒカリ等中生種）において防除の目安（8月下旬に株当たり5頭以上）を超えるほ場率は9.5%であり、一部で多発生しているほ場が認められ、防除が不徹底なほ場において坪枯れの発生が懸念される。
- (3) 本年の発生は、7月～8月の高温により急増しており、九州北部地方1か月予報では今後も平年並または高い気温が見込まれているため、更に増加が予想される。

5 防除方法

(1) 防除方法

9月5日～21日に幼虫最盛期（第三世代）となる予想であるので、ほ場をよく観察し、多発生が確認された場合は直ちに防除を実施する（図4）。また、防除実施7日後に再確認し、必要に応じ再度防除を実施する。

(2) 防除薬剤

防除薬剤は、平成25年山口県農作物病虫害・雑草防除指導基準による。

6 防除上注意すべき事項

- (1) ほ場での発生状況を確認し、効果の高い薬剤により防除を的確に行う。
- (2) 薬剤が株元にかかるように、丁寧に散布する。
- (3) 必要以上に早い落水は被害を助長するので、適期落水に努める。
- (4) 収穫期が迫り薬剤散布ができないほ場は、収穫適期の範囲内で早めに収穫する。
- (5) 防除にあたっては、適正な薬剤散布作業の実施、使用基準の遵守など安全で効果的な防除に努める。また、周辺ほ場への飛散防止対策を講ずる。

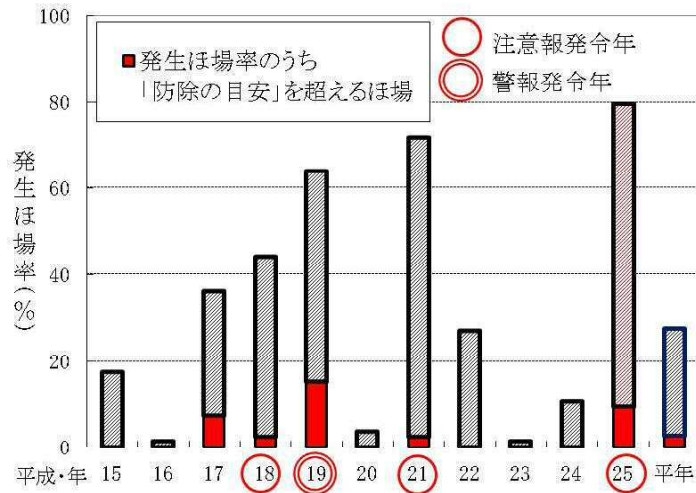


図1 トビイロウンカの発生ほ場率の年次間比較（8月下旬）

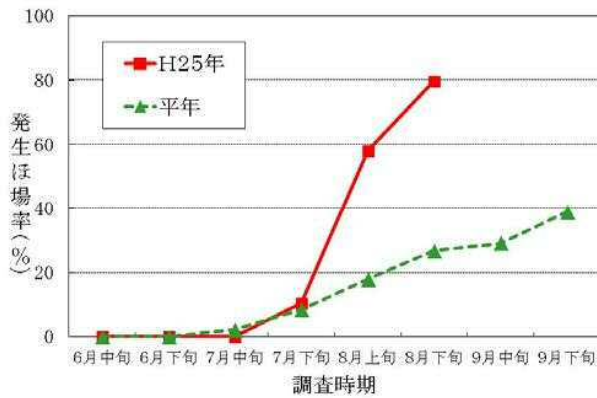


図2 トビイロウンカの本年及び平年の発生ほ場率の推移

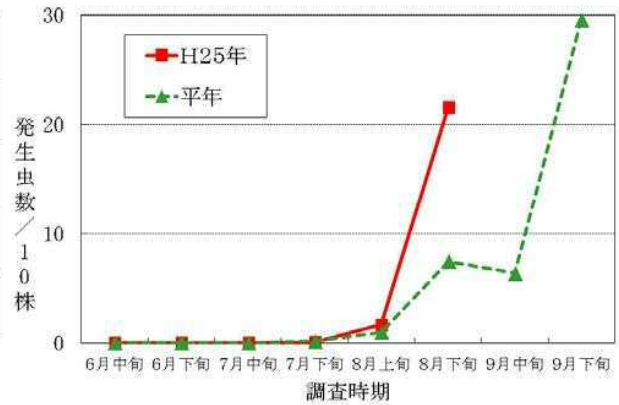


図3 トビイロウンカの本年及び平年の発生虫数の推移

JPP-NET病害虫発生予測システム

トビイロウンカの飛来日	9月					10月						
	1	5	10	15	20	25	1	5	10	15	20	
△ 6月19日	-	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o
△ 7月3日	A	A	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
△ 7月25日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

幼虫最盛期

凡例 A: 成虫 -: 卵 o: 幼虫 @: 防除適期
 ☆ 主要な飛来 ◎ 多飛来 ○ 並飛来 △ 少飛来

図4 トビイロウンカの防除適期予測図（予測日 平成25年9月2日）



写真1 成虫



写真2 株元の成幼虫



写真3 坪枯れ